

死にし妻を悲傷びて、高橋朝臣の作る歌一首

四八一番

白^{しろ}たへの袖^{そで}さしかへて なびき寝^ねし 我^わが黒^{くろ}髪^{かみ}の ま
白^{しろ}髪^{かみ}に 成^なりなむ極^{きは}み 新^{あらた}代^よに とともにあらむと 玉^{たま}の緒^を
の 絶^たえじい妹^{いも}と 結^{むす}びてし ことは果^はたさず 思^{おも}へりし
心^{こころ}は遂^とげず 白^{しろ}たへの 手^{たもと}本^{もと}を別^{わか}れ にきびにし 家^{いへ}ゆも
出^いでて みどり子^この 泣^なくをも置^おきて 朝^{あさ}霧^{ぎり}の おほにな
りつつ 山^{やま}背^{しろ}の 相^{さがら}楽^か山^{やま}の 山^{やま}のまに 行^ゆき過^すぎぬれば
言^いはむすべ せむすべ知^しらに 我^わ妹子^{もこ}と さ寝^ねしつま屋^やに
朝^{あした}には 出^いで立^たち偲^{しの}ひ タには 入^いり居^ゐ嘆^{なげ}かひ わき挾^{ばさ}
む 子^この泣^なくごとに 男^{をとこ}じもの 負^おひみ抱^{むだ}きみ 朝^{あさ}鳥^{とり}の
音^ねのみ泣^なきつつ 恋^こふれども 験^{しるし}をなみと 言^{こと}問^とはぬ
ものにはあれど 我^わ妹子^{もこ}が 入^いりにし山^{やま}を よすかと思^{おも}
ふ

反^{はん}歌^か

四八二番

うつせみの 世^よの事^{こと}なれば 外^{よそ}に見^みし 山^{やま}をや今^{いま}は よす
かと思^{おも}はむ

四八三番

朝^{あさ}鳥^{とり}の 音^ねのみし泣^なかむ 我^わ妹子^{もこ}に 今^{いま}また更^{さら}に 逢^あふよ
しをなみ